

相談事例

ID：02-02-015

相談タイトル

住宅の大規模リフォーム後のカビ発生について

Q：ご相談内容

両親が住んでいる家について。昨秋、木造の建物を骨組みだけ残し、大々的にリフォームした。耐震力を高めるため、石灰質の耐力壁を何枚も使用した構造。あわせて高气密高断熱になったため、以前よりは暖かく過ごせているが、畳に青かびが発生してしまった。今回の長雨も原因のひとつだと思うが、こまめに換気はしている。ただ、和室も隅まで掃除が行き届いていなかったり、畳の上に物を積み上げてしまっていることも原因だと思うが、高气密高断熱になるとカビが発生しやすいのか。発生した青カビを拭いたらカビはとれたが、畳替えする必要はあるか。

A：回答

高气密高断熱により冬場暖かく過ごせる等のメリットはありますが、室内空気環境により結露が生じやすくなったり、シックハウス・化学物質過敏症などの発生が懸念されるなど、デメリットの部分もあります。住宅については、シックハウス対策等として、24時間換気といわれるような、機械換気設備を必ず設けることとされており、換気設備の稼働により化学物質の排出と併せカビの発生もしにくくしています。カビに対する免疫などは人それぞれなので、畳替えしたほうがいいのかは判断し難いところですが、昨秋、新しく入れたばかりの畳で、色も変わっていないとのことなので、一般的には畳替えする程ではないと思われます。